

タカノ機械製作所

(株)タカノ機械製作所(東京都文京区白山、関目茂哉社長)はこのほど、感光性樹脂凸版製版機「タカノプロセッサー」の新モデルを発表。独自設計の特注LED管を採用した大型モデル「同DX-2120neo」が新たに加わった。

主露光、洗い出し、乾燥、後露光を1台で行う同機は、露光工程にLED UVを採用。主露光ランプにLED光源を等間隔に配置したカスタムモジュールを搭載する、従来機「同neo」の進化版になる。

新モデルの露光サイズは510×600mm。これまで同社製版機で最大の露光可能サイズを誇っていた「同A2シリーズ」の最大露光可能領域が拡大

したことで、「同A2neo」で採用したカスタムLEDモジュールではカバーできない形に。このため中央部から端部まで均一に照射し、かつ調光時安定し

る。「2120」の機種名が示すように、新モデルはエスコ製CTPイメージャー「CDI Spark 2120」を意識したもの。同機で焼けるプレートは最大508×533mmで、タカノプロセッサーで最も大きな「A2」でも入らなかった。今回発表した製版機DX-2120neoは、グローバル市場では最小サイズの位置づけとなるCDI Spark 2120に準拠したモデルだ

◆◆◆

最大露光可能領域が拡大



主露光を行う管型のLED光源。モニターでは主露光・洗い出し・乾燥・後露光時間をデジタル管理

▶管型の独自LED搭載 製版機「DX-2120neo」登場

生産性向上と“ステップアップ”支援 フレキシブル印刷

したことで、「同A2neo」で採用したカスタムLEDモジュールではカバー

できない形に。このため中央部から端部まで均一に照射し、かつ調光時安定し



CMYKの4版を一度に処理できる新型はタカノプロセッサーの中で最も大きなモデルに

イスを主露光部へ21本採用したDX-2120neoは、デジタル制御で10〜100%の調光が設定できる。調光量をはじめとする主露光・洗い出し・乾燥・後露光の各時間の設定は5パターンまで登録可能。複数の版を使い分ける場面でも事前に登録したパラメーターを即時呼び出せ、ヒューマンエラーの心配もない。

タカノ機械製作所の担当者、新モデル開発の背景や経緯をこう説明する。「開発の理由の一つ目は、エスコグラフィックスのCTPイメージャー「同A3」が国内に一定普及したため。A3ユーザーが近年次のステップアップを目的に2120を導入する事例が少なくない。同機で焼けるプレートサイズに適合したナローウェブ向けの製版機がなく、4色分を一度で焼けず2色ずつ分けて処理していた。製版工程で印刷会社のステップアップを阻害しないことを狙った」

「2つ目はフレキシブル印刷への対応。近年、ラベル印刷機メーカー各社からフレキシブル機が現れはじめている。新モデルはフレキシブルにも対応しており、主露光・洗い出し・乾燥・後露光に加え表面の粘着性を除去する『データック』を想定して5つ目のタイマーを実装済み。生産性向上にフレキシブル印刷への挑戦と、各位がアップグレードを図り心配なく前に進んでいただくための一助になればと位置づけている」

問い合わせは同社(☎03・5801・0725)。

た照度を実現する新たなLED光源として、蛍光灯のような管タイプを開発。510×600mmに合うサ